

♪「柴崎和圭アコーディオン教室 発表会」ぶらり訪問記♪

日時 2012年6月17日(日) 13:30 開演
会場 新宿区立 牛込筆筈区民ホール

柴崎教室では、毎回30人前後の生徒が皆さん独奏に挑戦します。今回も28名の生徒が独奏を行ないました。他に二重奏で4曲。終わりの挨拶の中で、次回には合奏の発表が出来たら良いなど、早くも次に向けての抱負を述べておられました。2年前のような大合奏が姿を消しちよっぴり静かな発表会でした。基本的には個人レッスンの教室なので、練習の曜日も違うし、合奏の練習は困難を極めると思いますが、教室の挑戦を期待したいですね。

生徒の年齢層は、10代の若者から70代の方まで様々ですが、若い方が多く、8割方が女性でした。またボタン式アコーディオンの方が沢山いて、最近のボタンアコ人気を実感しました。

アコーディオンが大好きで、日頃の練習が十分に出来ているのでしょうか、始めて数ヶ月と思われる方は一人も見当たらず、皆さんしっかりと演奏でした。

感じたことを幾つか挙げると、まず、皆さん姿勢がとても良いです。楽器と身体が一体となっていて、楽器がぐらぐらしていた方は本当に少なく、安定していました。それから、アコーディオンの特徴で、ジャバラを開いたらどこかで閉じなければ演奏が続かないのですが、これが意外と難しいのです。そのジャバラの切りかえしが上手でした。また、音にバラツキが少なく柔らかい音色の方が多かったです。

演奏曲の方は、全員が外国の方の作曲で編曲も、一人を除いて全員外国人の編曲です。初めて聴く曲がとて多くどんな曲なのか解らずに聞いていましたが、ピアノツシモのような弱い音でもしっかり出ていて綺麗な演奏でした。ちなみに知っていた曲は「パリのお嬢さん」、「ダーク・アイズ」、「エル・チョコクロ」他数曲で、「パダムパダム(作曲:N.Glanzberg / H.Conter)」や「Don Pedro(作曲:A.G.Villoldo)」など知らない曲が多かったです。

歌いながらの演奏が二人になり(二年前は一人だった)今回も楽しめました。1曲は女性で皆さんご存知の「オー・ソレ・ミオ」、もう一曲は前回は歌われた男性で「広がりゆく愛(作曲:G.M.Ferrelli)」を歌いながらの演奏でした。また、J.S.バッハの曲を演奏する方が5人もいるのは柴崎教室ならではのプログラムなのではないでしょうか。フリーベースの方もいますがスタンダードでも挑戦しています。

柴崎教室では、鍵盤アコ、ボタンアコ、フリーベースなど楽器もそうですが、きっと演奏曲なども生徒の要求に自在に応えられるのでしょう、生徒の個性の多様さを感じました。

二重奏は、「Kein Schweine ruft mich an(作曲:Max Raabe)」、「C'est si bon(作曲:Henri Betti)」、「Bonjour Juliette(作曲:Otto Eckelmann)」、「すみれ(作曲:Otto Eckelmann)」この「すみれ」が最後の演奏曲でした。会場からきれいな曲ねなどのささやきが聞こえました。筆者も、隣の友人とうなずき合い次回の成長を楽しみに会場を後にしました。

写真は記念撮影のスナップ。(乙津:記)



